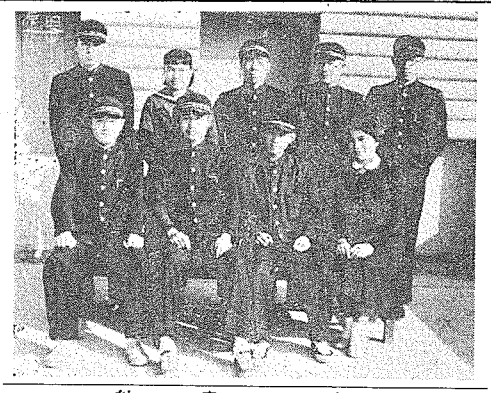

芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町55

省線駅前
大原市場内
美多屋のパン
電話芦屋（三五六七
五一三七

第八代
新役員の活動始まる

全国的に自治会の不振が叫ばれている折から、本校では十一月十九日、講堂において第八代自治会役員改選の選挙が行われ、会長下村雅信、副会長由良命子、白井達也書記長井川実、執行委員関輝夫、長尾幸美、島章君らが各々選ばれ十二月一日に事務引継ぎを完了、いよいよその活動をはじめた。

昨年度の選挙においても、自治会の沈滞が問題にされ、例年にない低調さが報じられたが、今回の選挙は、投票率においては昨年の八七・二%に対し八九・一八%とわずか一・九八%の増加を示している。しかし立候補申し込み締切日になっても、一名の立候補者がなかったということはめずらしいことで、自治会の不振という批評はとうてい免れることは出来ない。この自治会の沈滞は他校においても一部を除いて共通した悩みで、推薦立候補というのが意外に多いのが注目される。

新役員
会長　下村雅信
副会長　白井達也
　由良命子
書記長　井川実
執行委員　関輝夫
　長尾幸美
　島章

講演会を数多く
会長、公約を明示

下村会長は次のような公約を改めて明示した。

一、講演会を出来るだけ多く開く

これは近頃の芦高生（芦高のみとは限らないが）は、進学、就職に必死の現状で、自治会に無関心になってきたことをおそれて、生徒諸君の期待にそいつつ自治会への関心をもってもらうためである。

講師として有名な人をまねくことは、予算の面からも困難だから、現実的、実質的な人（例えば、一会社員で、就職難に苦労して入社した社会論を、就職する諸君のために）まねくよう実現に努力する

二、各部の対外的活動促進と活動状況を公表。

各部が対外的に活動した結果を、成績の如何にかかわらず公表し、生徒全体に知ってもらえれば、その部に対する興味も起ると信ずる

三、運動場に時計、水道の設置に努力する。

これは多額の予算を要するので困難ではあるが、生徒諸君の便利を計るため出来るだけ努力する。

あといろいろ公約したいことはあるが、予算が必要なものばかりで、実現が不可能なので思いとどまった。予算が不必要で生徒の喜ぶ公約を見つけることはなかなかむつかしいことだと思った。

応援団員を募集

執行委員会では、新たに応援団員を募集している。本年六月にも、結成されはしたが、あまり活発に行われず、是非とも立派なものにと、いきごんでいる。なお希望者は執行委員会室まで。

論説

新役員に望む

低調の内にも、自治会選挙も終り、会長をはじめ各役員とも、芦高自治会の主軸をなす人物として申し分のない人々であると確信する。これら役員も決った現在、我々は、この人々が、芦高自治会の発展のために、いかなる方針をたて、実行していくかを見守る必要がある。前役員の時にも設置されていた投書箱が、今度も名前を〃声〃と改められ、各設置されている。これは自治会員の直接の発言用としては最適のものではあるが近頃はただ設置されているだけで意外に投書が少いのが実体なのである。これをいかに有効に利用するかが我々に与えられた課題であると同時に、役員側は、今後も相変らず投書が少なかった場合には改めて投書箱の存在を考えてみる必要がある。

自治会はとりも直さず芦高生一人一人のもので、執行委員だけで運営されるものではないことは、いうまでもない。自治会員がどのように考え、どのようなことを望んでいるかが、それぞれ執行委員会側の根本方針とされるべきで、その方針が、単に執行委員のみの考えによって決定されるべきものでないことを考えると、一度役員になってしまえば、会員がどのような考えを持ち、どのような希望を持っているかを全然知らないというようなことがないようにしなければならない。その会員の希望を適確に表わすのが投書だと考える。しかしその投書箱が利用されず、何の役にもたっていないようなら、役員は改めて会員の考えを知るためとしての方針を立て直すべきである。会員の意見の尊重をただ投書箱のみにたくして、それが何の役にもたっていないのも省りみず、ただ投書箱があるという安心感に流れることがないよう心がけねばならないのである。

また現行の生徒大会にも問題がある。現在の大会では、役員側の提案したことが何の討論もなされず、ただ単なる手をあげるという動作のみで決定されるという結果になり、余りにも役員側にも、我々にも無責任な方法ではないだろうか。少なくとも多数決をとる前になんらかの形で討論されるべきで、ただ形式上、会員の承認を求めさえすれば良いという方法は、当然改められなければならない問題である。現行の生徒大会は、その根本精神がどうあろうとも、結果においては決して良いものとはいえない。多数決制は民主々義的裁決の理想であっても、それが真剣になされた結果のことであって、ただ単に、手を上げ下げする動作のみに終ってしまっては何の意味をもなさない。以上投書箱にしても、生徒大会にしても、一般会員の考え直さねばならない所は多くはあるが、新役員は、少しでも会員が自治会に関心を持つよう、またその意見が反映される様、努力し研究するよう期待するものである。

会長就任の挨拶

十二月一日、八代目自治会々長に就任した。僕は来年こそは自治会最良の年だと、はっきり決めている。そうと決まれば向こうから鴨が、ねぎをぶらさげてやって来る前に、こちらから出かけて行って首筋さげて追い込んで来る積りだ

× × × ×

就任に当って大きな希望を一、二持っている。その外郭は立会演説会においても述べ、また諸君と公約したから今更述べるまでもないが、あの時、具体的計画は話さなかったにもかかわらず、それについての質問が全然なかったということはどうしたことか。これでは自治会に関心が薄いと批判されても致し方あるまい。例え君一人でもよいから、詳しく話してみたい。気軽にやって来てほしい。対外的折衝や活動も大切だが、先ず我が芦高自治会内部の充実の必要を大いに痛感している。

× × × ×

自治会活動は共に愉快にやろう。明朗で、きびきびした活動をしたい、流れにおどる若鮎のように、遊ぶ時はピチピチと愉快に遊び、やるべき時には、どんとしっかりやろう。これが僕の信条だ。

× × × ×

代議員といえば体のよいクラスの小使いだというが、全くその通りだ。然し来年こそは大いに違うぞという声を聞いて、頼母しい。勿論僕は例えきらいな地震が起り、雷が鳴ろうが、代議員会には、欠かさず出席する。華々しく文句のやり取りをやろう。幸い代議員諸君の中には、親しい友が多いのでよき協力者となってくれるのは確かだが……

× × × ×

文句箱も声と改名したから、気易く大いに活用して、諸君の声をどしどし聞かせて貰いたい。然し十の文句より一の実践的断行が肝心だ。口べたの僕がわざわざ御座なり文句の協力乞いはしないが、機に一然、諸君と共に前進するのみだ。

× × × ×

三年生の方々も余す処僅かの月日にして卒業され、来年は外部から芦高を見られる訳だが、来るべき芦高自治会の成長を御期待願い、同時にまた我々後輩のために惜しみなき御指導と御鞭撻を乞う。我々会員は希望に胸おどらせて「春あけぼのの打出浜」を見るのも遠からずと信じ、自治会の前途を祝福し、同時に旧役員方々の並々ならぬ努力を厚く感謝しつつ筆を擱くこととする。

下村雅信

落し物
展示会行わる

十二月十九日、自治会委員室において、落し物展示会が開かれ、該当者のない物は、売却、傘の購入にあてられた。また一部は折からの歳末助け合い運動に寄附された。落しものには、トレーニング・ズボンをはじめ、エプロン、筆箱から、参考書、教科書等があった。

卒業式日、内定する

三十年度三年生の卒業式の日は、来年二月二十七日頃に行われることに内定している。

新出発への態勢備う
各部新幹事決まる

新役員決定後、初の幹事会が、運動・文化・書記外局で行われ、各々新幹事が一部を除いて発表され再出発として万端の態勢を備えている。各部新幹事次の通り。

書記外局

放送部	村上　光平（2I）
美化部	越智　恭弘（2E）
図書部	田沢　節子（2E）
出版部	青木　一男（1E）

文化部

生　研	中川　逸雄（2F）
弁論部	竹川　宗彦（2G）
音楽部	金森　直裕（2H）
ＥＳＳ	重久　公男（2J）
文芸部	藤原　隆男（2B）
鉄　研	檜山　隆光（2H）
写真部	北野　正明（2H）
美術部	村上　徹（2I）
物　研	氷田　重幸（2J）
社　研	河本　行生（1B）
演劇部	松尾美智子（2H）
映　研	西村　光生（2C）
化　研	近藤　英雄（2E）
数　研	渋川　清雄（2J）
食　研	柏川　綾子（2E）
被　研	肥田　照子（2J）
書道部	堀本　邦雄（2D）
茶道部	大利　明子（2E）
華道部	杉浦　詩子（2A）
天　文	柴田　忠彦（2H）
ＢＤ部	東出しおり（2E）
史学部	上橋　健俊（1B）

運動部

陸　競	湯川　公夫（2I）
山　岳	松本　義輝（2G）
ラグビー	熊野　勉（2C）
サッカー	未定
卓　球	森本　征彦（2C）
硬　野	渡瀬　昇二（2F）
軟　球	永田　博彦（2C）
硬　庭	半邦　男（2F）
軟　庭	野尻　利宏（2G）
籠　球	広岡　兼二（2G）
水　泳	大谷　力（2J）
柔　道	松浦　脩（2F）
拳　闘	石崎　正勝（2I）
剣　道	宮沢　博臣（2C）
排　球	遠藤　茂治（2C）

サッカー部へ十万円の援助決る

十二月十一日、生物第二教室において代議員会が開かれ、サッカー部全国大会出場の資金カンパについて、生徒一人四十円の援助を決定した。

裏表独語

◆芦高自治会第八代目下村内閣が成立した。副会長と執行委員に女子一名ずつを置き、全て二年生による錚々たるメンバーである◆しかし諸君も御承知の如く、今年の選挙は副会長、書記長、執行委員共に例年にみる激戦であったにも拘らず、会長の候補は唯一人という妙な形のものだった◆尤も去年にしても書記長の候補は藤井君一人だったが、執行委員会でもその中心たるべき会長の席を争う者が一人も出なかったのはなんとしてもおかしい◆立会演説の時だったか、誰かが各候補者に「何故会長に立候補しないか」という主旨のことを訊ねていたが、その答弁に一候補が「僕は下村君を信頼していて、彼と共に芦高の自治会を発展させようと思って立候補した」といったのを憶えているが、もしそれが今後一年間の芦高自治会員の共通した声であるならば、会長候補は一人でも何等不思議ではない。しかるに選挙の前後を通して下村会長に対することはあまりカンパシクないと同時に、下村内閣に対する期待もさして大きくないようである。ということは、某候補がいったような「下村君を信頼して……」の言葉が芦高自治会全体を代表するものだとはいい切れなくなってくる。◆井伊前選管委員長の言を借れば「不満があるのなら自分が立候補すればよいじゃないか」ということにもなるが、そうはいかない。つまり「自分では勿論駄目だが、下村でも何だか頼りない」というのが共通した考えのようである◆このような不安定な準備で成立した下村内閣が第一に印したことはというと執行委員会室の鍵のかけ換えと、豪華なテーブルクロスを新しく購入したことである◆発表された施政方針とこれらの事実を見くらべる時、下村内閣が形式的に流れがちになるという懸念は充分にある。

新しい店、良い品を安く
久堀運動具店
芦屋三八通り
電話３１３１番

時計の修理は
芦屋本通りの
筒井時計店へ

現像・焼付・引伸・貸暗室
手札15円　名刺10円
長塚フォトルーム
打出浜町１２１（宮小西門南一丁）
電話　５５４６番

毎日の健康に
「明治牛乳」を
申し込みは
明治牛乳芦屋販売所
芦屋市茶屋之町１番地
電話２７９０番地

新自治会に望む

―アンケート―

出版部では、去る十二月一日に発足した新自治会に対する希望を先生及び自治会員にアンケートした。今度の選挙においては、芦高自治会始まつて以来の、立候補届出日の延期等、前途に不安な思いを抱かせたが、これら自治会の意見を大いに取り入れ、ここ一年間力一杯努力される事を望むものである。

絶対に信任します

寿賀正先生

芦高の一寸古い先輩が学校に来たら必ず「芦高は大きくなりましたねえ！」とあきれたような、さも感心したような声を出します。もつともです。増築されたとはいえ、狭い中に一五〇〇有余。つくづく考えて見る迄もなく、全く大変だなあと思う。立候補届出が締切を延したのは初めての事だと聞きますが、この大変な事を認識されて慎重を期された故で校内雀。囀ずるように決して気遅れされたのではなく、初めは処女の如く、終りは脱兎の如くの言葉の例だろうと思います。芦高生の恵まれた校内生活は歴代自治会役員に優秀な人物を得ている事でしょう。よき伝統で誇るべき宝です。芦高の歴史は浅くとも輝くものの根元、歴史の原動力です。新内閣はこの歴史の一環でこの光栄に敬意を表します。十指に足らない内閣、一五〇〇有余の大衆、以前に比べると何だか稀釈されて来たような気分を抱かせる事が感ぜられない事もありません。これはどうしても避けられない事で仕方ないと言つてしまえばそれまでですが入試が激しくなると共に風潮が余計に感ぜられます。大衆諸君の協力切望は当然ですが、内閣諸君は大義名分を大上段に振りかざすのもよろしいが、それよりもとげとげとノイローゼ気味の大衆の日常生活に直結し、ほのぼのと暖かさのあるそして大効果ばかりをねらわない永続性のある日常斗争を……。そして時には嵐の如く、熱情を吐き出す（運動の応援、文化祭等）卒業して芦高時代は〝何だかよかつたなあ〟と感ずる事が出来ればと思います。我々は一五〇〇の生徒と共に内閣を絶対に信任します。我々は諸君に一辺倒です。

「有錢出錢、有力出力」でいきましょう。

代議員会と手をつなげ！！

二年　重久公男

「蓼食う虫もすきずき」なんていうと失礼かも知れないが一年間一生懸命にやつてもらいたい。芦高生には芦高生としての常識があり、またあつて然るべきであろう。諸君、新役員はその芦高生の常識を利用して、また悪い所は無視して正々堂々と明るい執行委員会を築き上げてもらいたい明るい執行委員会即ち明るい芦高と考えられるかも知れないがもう一つ必要なものがある。諸君は代議員会と手をつながなければならない。執行委員会、代議員会、この二つは対立するための機関ではない事を頭に置いて行動して欲しい。

まとまりのある学園に

一年I組女子

何よりも先ず、実行の人となつてもらいたい。立候補の時発表した公約を早速実行にうつし、下り坂にある芦高自治会の再建のために全力をつくして欲しい。代議員が一つのクラスをまとめるように、簡単にはいかないでしょうが、少しでもまとまりのある学園になるよう望みます。これには役員だけでなく、全校生も協力しましょう大きな事を考えずに私達の身近な事から考えてやつて頂きたいと思います。そして、まとまりある学園にするため、まず執行委員の方々全体がよくまとまつて行動して頂きたいと思います。

本当に御苦労様です

三年　山根千鶴子

やつと私達の仕事をあなた達にまかせて、ホツとしているところに依頼されたアンケート。

こんな事は私達の事も考えると余り大きな顔をして言いにくいものですが、私達の経験からみて（すでに直接話した方もいますが）もう一度紙面に於いて言わさせて頂きます。

これからの一年間、本当に御苦労様です。新しい希望と意気をもつてスタートされた様子は一見してわかりますが、何事も成功すると思う事はそれがいざ事にあたるとたちまちくずれて理想の念を味うものです。いざという時の心構えも是非必要です。

私達の社会を見ても党内が不統一でどうして真の政治が出来るかというように、私達の芦高も一つの小さな社会ですから、その上に立つあなた達はまず執行委員内での協力が必要です。何事も一人で出来るものではありません。といつて上でグルグルまわつている風車を子供達が見上げているといつた状態になつても困ります。（多数の人間が一緒になつて動いて行くつて事はムツカシイ事ですね）こんな事を書くと不安にかられるかもしれませんが、物事が成就した時の喜びは直接これにあたつたものほど、また異つた真底のあるものが味えると思います。

児玉さんにも言われたでしょうあなた達は余りに真面目すぎるつて。勿論役員という責任感と初めてのこととしては無理もない事ですが、もつとバンカラ（こんな言葉適当かどうかわかりませんが）になつて欲しいと思います。

誰もが気軽に執行委員会室をのぞける、そんな雰囲気を作つて下さいね。（どうも先輩ぶつたお願いになりましたがー）

下村君頑張れ！

悔いなき青春の場に

児玉隆也

下村君、いよいよこれからだね君も忙しいことだろう。しかしこの一年、君が真剣にその仕事を全うしたら、この上ない貴重な何物かを得るにちがいない。こんな意味では、君はその立場を与えられたことに感謝すべきだ。

来年の自治会に望むことを何か書いて欲しいと、出版部の人から頼まれたのだが、ものを書くという事がこの頃何かむつかしく感じられて、真剣に書こうと思えば思う程、余計に行きづまつてしまうので、こんな手紙形式のものにしたわけだ。少々個人的にはなるが自治会としてではなく、僕個人の感想というようなものを君に書いて見よう。

今年は比較的スムーズに仕事がはかどつたようだ。ただし、あくまで比較しての話だが、とにかく割合仕事がやり易かつた。これはどこにその原因があるのだろうかと、種々考えてみたのだが結局はティーム・ワークという点にあつたように思う。事務的に仕事を片付けていけばよいのだから、そんなもの大した影響もあるまいと思うかも知れぬが、これは大切な事だ。実は去年、僕が会長に立候補する時、それまで一年間、二年生の時執行委員をやつていて、その重要さを痛感したので、何よりも先ず、執行部の中の親密を計ろうと考えて、そのために、僕の気の合つたもの（遠慮なく文句の言合えるもの）〝こいつなら一緒にやつていけそうだ〟という人間を選んで、立候補を勧めたわけだ。なかなか承諾してくれなかつたが……。結果としては、成功したと思つているのだが。

そして発足してから、大学ノートを一冊用意して、それに何でも良いから、自分の思う事を書くようにしたんだ。今から読み返してみると、意義があるものだつた。お互いの悩み、苦しみ、喜び、悲しみ等も記されてあるかと思えば仕事の上での個人的な不満等も書かれている。お互の論争もある。僕等はこれを読むことによつて、また書くことによつて、各人相互の理解の糧としたんだ。小さなことのようだが、君もどんな方法ででもよいから皆の気持を一つにまとめるようにして見給え。ただし、どんなことでも実行する迄は、各人意見を交わして論争することは、絶対不可欠の要件だがね…。そうして執行部がガツチリと固まらない限り、千五百人の芦高生が、また「一丸となる」なんて事は考えられないことだ。

大人の社会を見ろ、良い年をした代議士達が終始、やれ分裂だのやれ合同だの、党首が誰だのと騒いでばかりいて、中心そのもののが不安定だからいつまで経つたつて、なすべき事が出来ないし、俺達も、そつぽを向いて勝手にしやがれという不信の念を抱くようになるんだ。学校も国家も規模の大小こそちがえ、理屈は同じだよ。

特に今年は、例の立候補届出締切日の延長の件等にも見られたように、芦高生の自治意識低調論（僕は、今はそんなにも感じなくなつたが）ということもあるようだから、君等の活動が空まわりせぬように気を付けて欲しい。しつかりと足を地について……。

一年間？　そんな仕事をやつていれば凄く程短いものだ。僕はかつて「長いようで短かい」という言葉を聞いたり言つたりしたが、実際今度程切実に感じたことはない。

予算・記念祭等、大きな仕事の時には、どうしても繁雑になりやすいものだが、一つ一つ確実に処理して行くことは必要だ。また一つの仕事をなし遂げた後の満足感は素晴しい。そういう意味では、僕等の時と違つて今の執行部にはその仕事の内容を知つている人のいないのは痛手だと思う。それから、君の次に芦高自治会を直接運営していく一年生が誰も入つていないということも……。

正直な話、僕は君達二年生より一年生の方に期待していたのだが案外失望してしまつた。

記念祭について、ついでに、というよりも是非言つておきたい。今年は創立十五周年というので、相当例年に比して大きなものになつてしまつたが、願わくば、今年を山として区切りをつけ、来年からは、従来の形式を破壊して、他校に見られるような普通のものにしてしまつたりせぬように、努力して欲しいものだ。現在の記念祭の制度は、先生方でも、僕達生徒の中でも種々論議されていることは事実だが、僕達今年の執行部のあるいは、僕個人の感情としても卒業してからの一先輩としても、この記念祭は是非維持して欲しいことの一つだ。何も必死になつて今の制度にしがみつけというのではない。改善・発展を伴つての話だが。

もつともつと書きたいこと、また書かなければならない事があるのだが、それは芦苗に書くこととして、要するに、先生方と生徒である君達芦高生が一体となつて、僕達にこれから卒業するものが、また今迄に卒業した先輩が、そして君達在校生が、それから来年四月僕達と入れ換つて入つてくる一年生が、一口に言えば、芦高でその青春を送つた者が、いつまでも懐しさを持つて眺められ、芦高を生活の場とすることに喜びを感じるような雰囲気を永久に保つよう努力してくれ給え。

もうすぐ僕の好きな放送〝お母さんの黒板〟が始まる。それではこの辺で。

さようなら

十二月六日、夜

クラブを通じての団結を

一年　中島良能

僕が今から書こうとしている事は新自治会に望むというより、僕の自治会観というようなものになるかも知れない。

元来千五百人もの人間を一つにまとめ計画する事をスムーズに遂行する事は大変難しい事と思う。これらの点をやり易くするのは、我々自治会員の積極的な協力が必要であるという事は、言う迄もない。少し具体的に言えば自治会役員の言う事を良く聞き、そして改めるべき点はどしどし文句を言つて行く。このような建設的な意見の検討に満ちた自治会であつて欲しいと思う。また我々が進んでまとめ難い自治会を一つにしようと努力する。例えば野球やサツカーの応援に行つて皆が一つになつて声援する。これは、一人そのスポーツのみの問題でなくこのようなものを通じて自治会員がまとまる一つの方法であると思う。つまりスポーツだけでなく芸術や思想を通じて自治会員が相互に融け合うこと。また、我校は他校に比べて特異な点が多い。これらの中には短所もあるが長所も多いと思う。これらの長所は是非伸ばして行かねばならない。これにも役員と自治会員のとけ合つた努力が必要であると思う。悪い所はどしどし批判し改める態度が必要である。要するに皆が必ずどれかの部に入り自治会を批判せよとの自治会役員の心を汲んで積極的に自治会発展のために協力すべきであり、またそうある時に、芦高自治会の発展があると信ずるのである。

中国見本市を観て

津本明男

大阪市役所前でバスを降り、大江橋を渡り会場へ。堂島川をはさんで建つ多くの近代的ビルディングの中に、見本市本館の正門がその中国風の豪壮な姿でどつしりと居を構えているのが目に入る。「なる程」と思わずつぶやく、玄関番の大きな唐獅子も型の如くである。

先ず天井の高いホールの周りの壁には高良、帆足氏以来今日に至る間の日中交渉、友交の歴史を刻みこんだスナツプ写真の列だ。先日故人となつた大山郁夫氏と周首相の交歓風景もすぐ目に入る。

広い数百坪の場内は鉄骨に支えられたカマボコ形の屋根の下、視線をさえぎる柱一本もなく、中央を縦断する線に対し、左右対称に品々が陳列されている。この幾何学的対称は建物全体によく見ると も品物の配置にも貫かれている構想であることに気が付く。そういえば、手工芸品や各所に見られる飾り等にも均整のとれた古典的な形態が基調になつているような気がする。モダンアートやアブストラクトのアイデアは少くともこの会場や映画を通じて縁が遠い。当然の話だが……。

写真は見本市玄関前

入つた所には、石炭をはじめ、各種の鉱石、塩、米、大豆といつた重要な意味を持つ食糧、原料品があつたが、これ以外の食品等にしても、物自体はたいてい日本にあるもので、感銘は薄いかも知れない。しかし、朝日新聞には「これは陳列により質感を盛りあげ得ない所から来ているので、これらのものが六億の人口により、広い国土から生産され、なお発展的になされつつあることを考え直せばはつきりと大きな意味を持つて我々に迫つてくるはずだ」とあつたが、確かにその通りだ。ただこの会場に並べられた三千点余の物品（一点二秒平均として二時間かかる）と、連日の物凄い人出の中でそこまで読み取る事は困難だ。

奥の正面は、割合良く知られている大治水工事の説明模型である。淮河、黄河の長江の綜合水利工事進展の状況が電気仕掛けによつて現わされ、それにシンクロナイズされたテープ・レコーダーに目を近づけてみたら、「東通工」こちら製だ。ちよつとニヤリとする。

次に正面の左右に広い場所を占めているのが各種機械類だ。第二次産業の花形であり、中国第一次五ケ年計画の要ともいうべき機械工業を端的に表明する品々である。素人の自分として感じたことを二、三あげてみよう。先ず、時々運転して見せている大きな機械類によつて、会場全体に重量感が生まれ、他の、例えば精緻を極めた工芸品等と一緒にして、よくバランスがとれていること。次にその多くがソヴィエイト式であり型の呼び名にロシア文字が使われていることからも解る。電気器械に特に多い。また、この機械を一台だけ急いで造つてもらつて来たんだろうとか、これならまだ日本に、もつと秀れたものがあるといつたような、変な消極的安心感をもつた日本人がいたと聞くが、もう少し素直に眺めたいものだ。更に中国としては、現在という登り坂の一時点での成果であり、今後十年、数十年後に達すべき目標について、最終的にはさほどでないとしても、方向だけははつきりしているという事情も考えに入れるべきだと感じる。

伝統の美術工芸品、特に象牙細工に堆朱等はすばらしい。デパートのように一々正札をつけていたらどの位かな、とつまらんことを考える。

普通の医薬品と隣り合わせて、これも特産の漢方薬。漢方医学という遺産を正しく生かそうとする巾広い態度に興味を覚える。やはりこの場合も、強い合理的精神といつたもので裏付けされているのだろう。

次にラジオ類。大体五球スーパーで、部分品や箱のスタイルは野暮つたいが、どれにも短波帯が開けるようになつているのが、ちよつと日本と異る点だ。やはり、放送局の数の割に土地が広い関係からか。電蓄はSPオンリーらしくいかついピツクだが、日本でもLPなんてのは、この四年来位のことだから、必要なら向うもすぐに追いつくかも知れない。

相当くたびれて横の出口より即売室へ。一服してから堂ビル裏の電影院（映画館）へ行く。

「今日の中国」というニュース記録映画（短編）と、天然色記録映画の「深山探宝」を見る。後者は地下資源開発のため、若い人達が調査隊員として海抜四千米以上のチベツト地方の高原に活躍するありさまを記録したもので、特に日本なら高校生ぐらいに見える女の人が男と全く区別なく、バリバリ仕事を遂行して行くのには、驚き入つた。この開発の事情について今までも「人民中国」あたりの写真で断片的にはよく見てはいたけれど、映画の中で一続きの事件なり流れの中に、その場所を再現されると、訴える力は数倍になるものだということを強く感じた。また、長く病床にあつた私には、この中に見られる建設的行動主義とでもいえるものに接し、肉体的劣等感をさえ感じた程だ。こんな映画は特に日本の若い人達、大学生、高校生あたりに見てもらいたい。そして自らの中にひそむ可能性について考えていただきたい。

最後に思うことは、来年彼の地で開催する予定の日本見本市のことだ。新聞によれば、すでに予定の時期（来年六月頃）に開くことは不可能であり、資金集め、ココムの禁輸品目（甲類）等により、見通しは、悲観的とのことだが、これだけ立派な誠実味のある見本市を、百数十万の日本人に無料で見せてもらつたお返しとしても、とも角日本の恥さらしになるようなことだけは、やつてほしくないと思う。

（筆者は本校教諭）

晴れの全国大会へ出場

―サツカー部―

2日 函館東と對戦

第三十四回全国高校サツカー県予選優勝戦は四日午後一時から西宮球技場で本校―神戸高で行われた。本校は運攻にものをいわせて2対1と神戸を破り初の同大会出場の栄冠を握つた。

準決勝 対兵庫工業高校

芦屋5（1―0　4―1）1県工

【経過】前半立ち上りに押されたが、すぐ立直り十五分李のシュートがバーに当つてはねかえるのを手島がヘツディングで決めてから元気づき、後半開始直後、眞吉のセンターリングを片山が見事に決めてから一方的に攻めまくりタイム・アツプ前少し乱れたがよく守りぬき楽勝。

決勝 対神戸高校

芦屋2（1―1　1―0）1神戸

【経過】前半立ち上り猛烈に押されたがバツクスはよく粘り失点を最小の一点にとどめ、一方フオワードは前半終了直後、李がスライディング・シュートを決めてからは調子ずき、後半十五分ゴール前の混戦からのこぼれ球を眞吉が左上隅に決めてそのまま押し切つた。しかし立ち上りとタイムアツプ寸前の神戸のプレーにはさすが伝統の強さが見られた。

なお本校は全国大会において函館東と二日一回戦を行う。

本校メンバー

GK 高浜
RB 石井
LB 野田
RH 川延
CH 佐野
LH 宋
RW 片山
RI 李
CF 眞吉
LI 藤原
LW 手島

予選戦績

一回戦　不戦勝
二回戦　対県西　6―1勝
三回戦　対市神港　3―0勝
四回戦　対夢野台　3―0勝
準決勝　対兵庫工　5―1勝
決　勝　対神戸　2―1勝

本年度就職状況に思う

バスガールはいや　高すぎる就職希望

丸　茂　喬

二学期もいよいよ終り、就職戦線の現況も峠を越した感がある。現在までの就職決定者は男子十五名女子四十六名、合計六十一名であつて県下高等学校中でもよい方である。しかしなお未決定者男子二十四名、女子四十六名の多数が残つている。現在までの進展状況は大体昨年並であるから、卒業までには百名程度の決定者が見られることを予想するが、一般情勢から見ると仲々楽観はできない。本年度の求人数は昨年をむしろ上廻ると思われるが、本年度の特徴としては男子の求人数が非常に増加していることである。これは事業所側が女子を敬遠する傾向が強くなつたのと、大会社における事務機械化のために女子の採用数が次第に減少することに基因する。反対に女子の求職者数は段々増加し、西宮職安管内の六高等学校の女子求職者数は昨年度より三百五十名も増加している。従つて女子の就職は今後一層困難になると思われる。男子の求人が増加しているのにもかかわらず、本校男子の採用決定者数が少ないのは一言にしていえば学力不足ということに尽きる。折角の求人数があつても、適当な推薦者がなかつたり、また推薦しても全部失敗して帰る状態である。次に本校生についていえることは、気位が高いというか、高望みというか、折角求人があり推薦しても辞退する者が多い。例えば昨年度など希望者がわんさと押しかけて来て推薦者選定に困つた百貨店等に本年は希望者が少なくて困つたのであつた。西宮職安の学校係で聞くと、あるバス会社のバスガールに応じた者が、他の高校では一校少なくとも四、五名はあるそうだ男子でも住込店員などはさらにあるといつている。御承知の通り本校でも募集したが一人も応募者がなかつた。よい所へ就職したいのは誰もの人情であり、我々就職係も出来るだけ努力を惜しまない積りである。しかしどうもあまりに身勝手な希望ばかりいわれると少々うんざりする。要するに自己の本態をよく見つめて、しつかりした就職意識を持ち、実力の蓄積に努力することが大切である。将来就職を希望する者は、この点をよく覚悟すべきである。社会は決して甘いものではない。芦高生であることにきんじを持つことは大切ではあるが、芦高生であるからといつて何か特権でもあるように自信したら大変な悔を残すであろう。

透視

投稿歓迎　出版部文は投書箱まで

汚い学校

新入の先生に第一印象を聞くと一度ならず〃学校が汚い〃といつたそうである。私もそう感じた、皆もそうであろう。汚いといつても校舎の貧弱なのは何とも致し方ないだろう。しかし教室の内の汚いのは我々の手でどうにでも出来る問題であると思う。教室移動でどこへ行つても窓ガラスは模様入りである。透明であるはずなのに壁には馬鹿みたいに大きな足型が印されている、何の為だろう。眺め廻すのはこれ位にして次は机である。いろいろ彫刻してある迷作ぞろいである。誰がしたのか？おそらくあまり賢くない人の作品だろう。授業中たいくつだつたら落書をせずに寝るとよい、その方が人に迷惑はかからないし健康的である。もしそれを書いた人の家へ行つて机を見たら絶対に落書なんかしてないに決つている。自分の物でないからきずをつけてもよいという精神は絶対に改めねばならない。皆が一体になつて学校の清掃に努力しようではないか。

不便な連机

芦高において意のままにならぬものは、いわゆる連机といわれる机と椅子が連なつている代物である。中学校で単机を使つていたせいか余計に不便を感じるのかも知れないが、父兄の人も椅子に座る時まごまごしている。よく先生に机の下がきたないといわれるが、机がかなりの重量があるので掃除をするのにかなりのアルバイトを要する。第一に机に入るのが不便である。新しいやつは入口が右側になつているが、古いやつの中にはちよくちよく左側にあるのが見受けられる。だから答案をもらいに行く時など交通整理もおぼつかない。端の者は人間の蹂躙であり、いろいろダンスのように足を上げなければならないし、後の入口から向うの机まで行こうとするとなると〃義経の八艘飛び〃張りのサーカスである。椅子が汚れることおびただしい、全く単机が懐しくなる。

硬野

興国商に敗れる

近畿大会準優勝

昭和三十年度秋季近畿地区高校野球大会は第一回戦に彦根東を七回コールドで降し、その余勢をかつて堀川、日高を次々と降していつたが、決勝戦において惜しくも興国商業に敗れた。

準々決勝

西京極球場（九時より）

芦屋　010001000＝2
堀川　000000010＝1

	芦屋	打	安	点
7	寺本	4	1	0
4	林	3	1	0
3	松薬	4	0	0
8	渡海	4	2	0
1	西川	4	1	1
6	松平	3	1	0
2	長谷川	4	0	0
9	有井	2	0	0
PH	木下	1	0	0
9	松浦	0	0	0
3	佐賀	3	0	0
	計	32	6	1
	振5　球1			

	堀川	打	安	点
8	小笠原	3	0	0
6	室田	4	1	1
5	豊田	3	1	0
1	前田	2	0	0
3	島本	2	0	0
2	森田	2	0	0
97	瀧野	4	0	0
7	山口	2	0	0
PH	市原	0	0	0
9	相良	0	0	0
PH	落合	1	0	0
4	永山	2	0	0
	計	25	2	1
	振8　球8			

【三塁打】渡海【二塁打】渡海、林、豊田

準決勝

芦屋　000001000＝1
日高　000000000＝0

	芦屋	打	安	点
7	寺本	4	1	1
4	林	3	0	0
3	松薬	4	0	0
8	渡海	3	2	0
1	西川	4	0	0
6	松平	4	1	0
2	長谷川	3	0	0
9	有井	3	0	0
5	佐賀	3	1	0
	計	31	5	1
	振8　球2			

	日高	打	安	点
2	田端	4	1	0
8	入江	3	0	0
1	玉置忠	4	1	0
7	三木	4	0	0
3	藤川	3	0	0
4	森本	3	0	0
6	楢	2	0	0
6	曽根	1	0	0
9	佐野	2	0	0
9	岡本	1	0	0
5	玉置和	3	0	0
	計	30	2	0
	振5　球0			

【失策】芦屋2　日高1【二塁打】佐賀

決勝戦

（西京極球場）

芦屋　000002020＝4
興国　000010130＝5

	興国	打	安	点
4	北山	3	1	0
5	路井	3	2	1
7	鈴木	4	3	3
3	松永	5	0	0
6	伊川	4	1	1
1	宮城	2	0	0
89	森本	4	1	0
2	井上	4	1	0
9	渡久地	1	0	0
8	栗本	1	0	0
	計	31	9	5
	振8　球10			

	芦屋	打	安	点
7	寺本	3	0	0
4	林	2	1	2
3	松薬	4	0	0
8	渡海	3	0	0
1	西川	4	0	0
6	松平	3	1	0
2	長谷川	3	1	0
PR	大西	0	0	0
2	高野	0	0	0
9	有井	0	0	0
PH	木下	0	0	0
9	松浦	1	0	0
5	佐賀	4	2	0
	計	28	5	2
	振7　球6			

【二塁打】北山【失策】興国2　芦屋1

【経過】五回表興国は一死四球から左中間二塁打で二、三塁のピンチを招きスクイズ失敗で三塁走者をさし危機去つたかに見えたが次打者の打球は投手頭上を越えるゆるい当りが内野安打となつて一点先取された。六回芦高は有井四球、佐賀はスクイズにそなえて前進、守備の二塁手の右を抜く安打で一、二塁とチャンス。寺本のスクイズが投手の三塁悪投となり同点、林の右犠飛で逆転した。芦高はなお二、三塁の好機をスクイズの失敗でつぶした。七回興国は三つの四球と芦高内野の乱れで同点とし、八回にも三安打と遊失、犠打で大量三点を奪われた。しかし芦高は伝統の試合を捨てないねばり強さを発揮してその差一点と迫つたが、主力打者がここというところで当らず惜敗した。敗因は投手の前日とは打つて変つた制球難と六回、八回の好機にもつと得点出来なかつたことだろう。これで芦高は県、近畿と共に準優勝した。

記録は上々

校内マラソン大会

今年度校内マラソン大会は十一月十九日好天気に恵まれ、午前九時三十分より華々しくスタートを切つた。男子は芦屋川から香櫨園に出て国道筋を通り本校へ四粁女子は宮川を折れて国道、本校へ二粁を走つた。

体育科先生談

例年に比して参加者は減少したが好記録が生れ、平均タイムも向上した。来年度のより発展を望む。

成績優秀者（五位以内）

		男子	女子
一年	一位	浜崎 捷二	文野己彌子
	二位	政田 稔	浜村三津子
	三位	西川 豊作	栗村 静子
二年	一位	余田 稠二	杉野 順子
	二位	中尾 篤道	増井 啓子
	三位	渋川 満雄	中島美沙子
三年	一位	山村 恭	谷田 侑子
	二位	三河 孝文	森 桂子
	三位	石崎 武	宮崎 矩子

校内マラソン参加状況

一年	男子		女子	
	参加数	在籍数	参加数	在籍数
A	二四	二八	一九	二三
B	二五	三三	二三	二三
C	一九	三〇	二〇	二三
D	二三	三〇	一七	二三
E	三一	三三	一五	一六
F	二六	三八	一四	一五
G	三一	三七	一三	一五
H	三一	三八	一三	一四
I	三一	四〇	一一	一四
J	三一	三五	一〇	一五
二年				
A	一一	一五	二九	三六
B	一三	二〇	一四	二三
C	一六	二六	二四	二四
D	九	一六	一三	二五
E	一三	一六	一三	二七
F	三四	四三	七	七
G	二八	四二	六	七
H	三一	三七	五	八
I	二八	四一	〇	〇
J	二八	三六	一七	一八
三年				
A	一八	二三	二〇	三三
B	一六	二七	一三	二六
C	一三	一九	二一	二三
D	二四	三八	一四	一七
E	二三	三〇	一二	一八
F	三二	四四	四	一〇
G	二七	四七	六	七
H	三〇	四三	六	一七
I	二五	四六	七	一〇
J	一八	二六	二〇	二七

書道部大いに活躍

全員が入賞、入選の栄譽を獲得

去る十一月十六日より二十一日まで奈良市庁舎別館で行われた第二回日本学書展において本校書道部は出品者全員入賞、入選の栄誉をかちえた。出品者の成績は左記の通りである。

入賞　関 輝夫
佳作賞　関 輝夫
室井 弘子
高塚 正利
入選　町 和夫
工藤 実
山名 正弘

また引続き十一月二十二日より二十四日まで姫路駅前山陽デパートにおいて催された天翔会第七回全国書道展覧会において前回同様出品者全員入賞・入選の成績を収めた。

成績は左記の通りである。

特選賞　みなせ堂賞　関 輝夫
秀作　工藤 実
高塚 正利
入選　岡田 孝一
山名 正弘
天後正太郎

栄冠は池田さんに

校内英語暗誦大会

去る十二月三日午後二時より第二回校長杯、校内英語暗誦大会が本校講堂において約二百人の聴衆を集めて盛大に行われた。審査員には天理大学のフィンチャー先生、神戸女学院のターナー先生、本校杉山先生、藤原先生の四先生が当られた。新部長の挨拶に続き前年度の校長杯の返還が行われ、二十人の出場者の発表がスムースに運ばれた。四時半、ターナー先生のユーモアに満ちた批評を最後に幕を閉じた。なお入選者は左に掲げるように一年生の池田さんが見事一位の栄冠を獲得した。賞状はフィンチャー先生の手から渡された。

一位	池田 紀子	一F
二位	北井加寿子	二D
三位	守社 節子	三F
四位	土屋 由紀	一D
五位	中島 尊子	二A
〃	丸山 マリ	二D

卓球大会行われる

第二回校内卓球大会は卓球部主催のもとに去る十一月二十四日より三日間講堂において三十二チームの間で熱戦が展開された。放課後より試合開始の為かなり暗くなるまで行われたが、外の暗さなど問題とせず、各クラス応援団は選手以上に興奮し講堂がゆれんばかりの盛況であつた。実力が接近し、どのゲームも大変見ごたえのあるものばかりだつたが、運の決するところ勝利は3Eのものとなつた。

3E	4―1	3H
優勝メンバー		準優勝メンバー
1岩本	2―0	松本
2川島	2―0	関矢
3杉原	0―2	皆川
4荒井	2―0	荒木
5嶋田	2―1	津田

器楽部員を募る

1、音楽に対する積極的意欲を持つ人
2、男女の別は問いません
3、楽器は適宜に与えます
4、絃楽器の出来る人も来年のオーケストラーをひかえどしどし入部して下さい
（入部希望者は練習場又は最寄りの部員迄）

冬山

3ト　三河孝文

師走も五日を過ぎて六甲おろしも身にこたえる季節となつた。最早北アルプスの峰々は厚い雪にうずもれ、雪の精が踊り狂つていることだろう。北国から雪の便りが聞えてくると冬山に一度でも経験のある人は、心を踊らさずには居られまい。山男の胸の中では、スキーが新雪の中を跳けめぐつて雪煙を上げているだろうし又スキーヤーの頭の中ではズボンの裾が風にはためき、耳には風を切る鋭い音が聞えてくる事だろう。

冬山の味というものは、夏山のそれに比べても季節の違いこそあれ、勝るとも劣らないものである。見渡す限りの銀世界、はてしない雪原、その美しさは例えようもなく、夏のダイナミツクな男性的なものに比して女性的とも表現出来るだろう。

荒々しい岩肌も混み合つた藪も小さな谷間も白一色に塗りつぶされて滑らかな肌ざわりを感じさせる。針葉樹は白の外套を着てモンスターを型取り、木の枝には霧氷が着き、新雪の後などは、まるでガラス細工のような美しさである。がしかし、美しく神秘的である反面、冬山は危険を伴う。危険を伴うことは夏山に於ても変りはないのであるが―。二十九年の十一月に起つた富士の大雪崩、同じく穂高岳での高校生の遭難、その他数多くの尊い人命を奪つている。山は無慈悲だと言おうか。一瞬にして十五名を呑んだ大雪崩の一件は一年余も過ぎた今日でも、生々と吾々の胸に甦えつてくる。

だが注意さえ怠らなかつたら、冬山はこの上もなく吾々に快感を与えてくれるのだ。

抵抗の無い新雪をスキーで滑走する素晴らしさ、回転をする毎に大きく変化する景色、朝日にきらめく雪を踏みしめて頂上に向う楽しさは格別である。谷間に反響する雪崩の響きは時々体を緊張させる。そしてアイゼンを利かして雪の山頂にたどり着いた時の気持は経験した者でなくては判るまい。見渡す限り銀色の波又波、サングラスを境にして見る世界は全く別天地のようである。恐らく冬山の楽しさを書き尽そうと思えば限りがないことだろう。

今年は日本の山岳会も再びマナスルに登山隊を送り、前年の雪辱とばかりに燃えるような意志と力で八千余米のマナスルの頂上に肉迫しているだろう。

唯、〃山がそこに在るから登るんだ〃という共通した目標のもとに、氷、雪、岩の風と、零下の世界に戦を挑んでいるのだ。白き神々の座も日本人の根強い力の前にはきつと屈するに違いない。

我々の人生も山を登るが如く、一歩々々確実に登らねばならない。今尚、冬山の想い出に耽ることが度々あるのだが、大自然の懐に包まれた山の限りない美しさと愛着をどうしても忘れることができないのである。

いよいよ冬将軍の活躍するシーズンだ。今年も冬山に憧れる若人が多いことだろう。

苦しみの中から

―アルバイトに思う―

二年　竹川宗彦

僕はこの道に入つて早や十年前後の日を数えている。この道と云えば少々大げさだ。しかし、この十年間、小学校二年から始まり、この夏、即ち高校二年までの間、歩んできたアルバイト航路は、到底口や筆では言い尽せぬ苦しみも味わつてきた。だから僕は敢えて〃この道〃と言つたのだ。

この道、即ちアルバイトからかち得た人生、いわゆる〃アルバイト人生〃とでも言おうか。その人生は、僕にとつて何物にも代え難い一つの貴重な経験である。どうして忘れようか！ 生れて初めてアルバイトをした日の事を。あの、初めてアルバイトの仕事に手をつけた時の触覚、感激ともいやみともつけ難い感じ、何しろ、小学校二年生の時だつたので、それ程、克明でなかつたかも知れない。しかし、今にして、その時、何かを感じとつていたという事がつくづく思われるのである。

新聞やラジオでよく、アルバイトという事が問題にされるのであるが、僕はその様なものを見聞きする度に、何人の人がこれを読み聞いているであろうか。又、その事実をどのように受けとるだろうか。唯、ぼんやりと無関心に流してしまう程度の人が大部分ではなかろうかと思う。しかし、もしアルバイト経験者、即ち少なからずアルバイトを行つたものが聞いたならば、何らかの感興を持つて接するであろう。僕は今、何らかの感興と云つたが、簡単に云うならばこういう事だ。それは人によつて差異はあるが、今、或人がアルバイトに関するニュースを聴いて或点に於ては共鳴し、又ある点に於ては不満を感じ、又遺憾に思う。これらの感興はすべて、自らの経験によつて生れてくるのであり、事実、実際に味わつた者のみが感じるのである。

しかし、何時の時代に於いても苦しいものである。歌でも歌つてやれるというのは非常に少ないものである。しかし、考え方によつてはこれが本当かも知れない。楽しく働く―確かに良い事だと思うだが、やせがまんにも苦しいという事実は否めないが、苦しみの中から得たものは何んでも本当に良いものだ。遊んで得た物より何倍も役に立ち、身につくと僕は思う。

こうして、書いていると、過去のいろいろな事が眼前に浮んでくる。そうだ。悲しかつた話を上げてみよう。僕が中学一年から二年にかけて、新聞配達を一年半程やつた事があつたが、その中の一つだ。―中学一年の時だつた と思う。月末の集金で忙しく、僕も集金に行つた。二、三十軒程まわつて店に帰つて、主任の人に計算をしてもらうと千円足りない。何回となく計算しても千円足りない。人間は勝手なものである。こんな時はよく〃神よ、願わくば―〃と思つてしまう。僕もその例に洩れずさつそくそう感じた。そして、主任さんの顔を退屈勝ちに見る―そんな時に目が合うという事はいやな事だ。それから、もう一度、そこらに落してないかと、来た道を歩いてみた。その時の気持は悲しいの一言である。〃願わくば云々〃である。しかし、こんな時は案外出てこないものだ。どこで落したか解らない。探して歩いても無いものは無い。仕方なく店に帰つたあの気持、再び、悲しみである。又、こんな事もあつた。それは今年の夏、荒物屋さんへ行つていた時の事だ。夏のあの暑い盛りだ。店の主任の人から、品物の配達を頼まれて、山の手の上の方まで行つた。やつと、その家に着いて品物を渡すと、品物が違つている。かえてこいと言われた。夏のしかも暑い中を、せつかくあえぎ乍ら登つてきたのに〃品物が違う〃の一言の下に―。その時の無情に感じた事、神も仏もあるものか―、配達に行つてこいと言われて行つたところ品物が違う―仕方なく引き返して変えてきたが、よくきいてみると、頼まれた品物の横にあつた別の品を配達に行つたらしい。

悲しかつた事も多くあるが、嬉しかつた事、楽しかつた事も多い

嬉しかつた事と言えば、何と言つても生れて初めて自分で働いてお給金を貰つた時だ。小学校二年の時だ。今でも覚えている。その頃は僕はまだ日給だつた。日給十円の高給者だ。しかし、金額が何ぼであつても嬉しかつた。

その他、山手の方への配達で、急配であつた上に、荷物は何か忘れたが大きくて重たい物だつた。中頃まで行つてどうも仕様がなかつた時、小さな子供が後から一生懸命押してくれた事だ。この時には本当に頭が下る思いであつた。

しかし、いやな事は、ほめられる事だ。友達のお母さんがよく〃おえらいですね。うちの子なんか……〃となると、本当にいやになる。事実だ。

この位で、つまらない、本当につまらない回顧はよしておこう。今、ここにあげたのはほんの小さな事である。しかし、この小さな事の中にも、アルバイトという事実が含まれているのである。何事も物は試しである。僕も又、今年の冬もアルバイトをやる積りだ。自分にとつてはあらゆる面で利益を得ている。しかし、それは、アルバイトをやつたその日にわかるようなものではない。何時かは喜ぶ日のくる事を祈つているのである。僕にとつてわかる事は唯一つやつて悪いものではない。自分で働いてこそ物のありがたさが解るという事だけである。

終始一貫せぬ文になつてしまつたが、思つている事をまとめず書いてしまつた後になつて、読み返してみて、自分自身、何とつまらぬまずい文だと思う。しかし、少くともアルバイトというものを知つておられる方は、僕の言わんとするところは買つていただけると思う。

―海底二万哩にみる―

科学映画の真実性

山丘損遊

今月の十八日の朝日の夕刊だつたと思うが、エライ大きな見出しで八十九年前に原子力が云々と響きたてていたが、洋画の原子力に関する映画がゾクゾクと輸入上映されるに伴つて、日本でも東宝などが〃ゴジラ〃などという怪し気な怪物をひつぱり出して来てアメリカの真似事をし始めたが、しかし〃ゴジラ〃にしろ〃獣人雪男〃にしろ、日本の原子力映画なるものはちよつとバカバカし過ぎている〃ゴジラ〃に例をとつても、水中の酸素を瞬間的に失くしてしまうて云々というトテツもない発明をしてしまい、水槽の金魚に実験したりしていたが、この実験で金魚は骨だけになつてしまつたにも拘らず、いざ真剣勝負となつてこの発明をゴジラ退治に使用した時はゴジラを除いて海中の如何なる動物も全くの平穏無事であつたのであるから可笑しな話もあつたものである。ちつとも海中の生物の変化は見られなかつたし、海面においては泡もゴジラの大暴れの外には何等変化がなかつたのだから海中の生物が無事だということは容易に想像出来る。その点米画においては何処かに科学的根拠があり筋もどこかにもつともらしい点を含んでいるようなのでトリツクだとは知りながらも、その話にひきつけられてくる。技術の不足ということも勿論考えられるが、それ以上にこの科学映画に対する綜合的な研究が不充分なように見える

その点で今日から京阪神で開かれるディズニーの〃海底二万哩〃は興味をそそるに充分である。潜水艦ノーチラス号を、その巨体と恐るべき力によつてツブしてしまうような大ダコや大イカが出て来たりして〃理屈〃をもつて見れば甚だ馬鹿々々しいが、潜水艦の内部構造などを大写しに見せるのは、観客をして嘘の映画を真の映画のような錯覚を起さしめるのに効果的である。ムツカシイ理屈は抜きにして見れば面白い映画である。

編集後記

◇…今度こそ充実した新聞を！と思いながら、毎号時間に追われて満足出来る程やれた事がない。今号もちようど期末考査があり、おまけに、年末で印刷所も、いそがしく、原稿締切に追われてしまつた。その点申しわけなく思うが、新聞製作するには、どこでも、こんな状態で、我々には、とうていいつまでまつても、時間の余裕等出来そうにもない。

◇…出版部投書箱は、前号でもその利用をお願いしたのだが、一向に投書が少い。また、たまにあつつても、名前がなく、学年なども書いてあるはずもない。紙上匿名は認めるが、初めから名前の書かれていないのは、困る。大いに活用されるよう再びお願いする次第である。

◇…我々としても、少しでも多くの人に読んでもらうため、いろいろ企画にも気をつかつているのであるが、やはり読者自身の声も聞きたいと思う。インタビュー、調査等、希望を投書箱までお願いしたい。

◇…サッカー部全国大会出場、硬式野球部近畿大会準優勝等、自治会も、クラブ活動では、大いに活躍し、心強い思いがする。我々も一度、コンクールに参加して見たいとも思つている。

◇…全国でも学校新聞で六〇号を越える所は数少ない。我々はその伝統を生かし、一層の充実、発展のために努力をする覚悟である。広く自治会会員諸君の協力をお願いする。

たにま

㊂作と英語

今年は何百年目かの豊作だそうで農民にとっては勿論のこと、国をあげての豊作ブームである

× × ×

しかし何時になっても豊作のないのが普通一般の学生の試験である。試験を返してもらう時は、肝が上つたり下つたり……。〃不作〃〃平年作〃あげくの果ては〃凶作〃まで飛び出す始末。

米の方はいくら凶作でも零というものはあるまいが、こちらには往々にして〃零〃が存在する。

× × ×

一般的に言つて、英語の〃凶作〃が多いが、信州の山奥でこんな話があつた。

× × ×

話というのは高校入試に英語が入つたので、中学校で英語を必修にするか否かで、教職員組合が猛反対をしたというのである。

山奥でいらぬ英語は不必要という説である。

× × ×

戦後、駐留軍のおみやげとして英語教育が、戦時中の絶対禁止もよそ事に、急激になされるようになつたが、世間でも、〃英語を志す少数の者の為に多数が犠牲にされている。そして学校で習う英語は実際には殆ど役に立たない云々〃等の反対論から〃英語は国際語である。しかるに世界的視野を広くする為に……〃等の賛成論まで喧々囂々であるが、さてどんなものだろうか。

× × ×

これについてA君曰く、〃英語がなくなれば単語をひく時間と、凶作から免れる〃成程、モットモな話ではある。

新刊書籍・雑誌・文具
教科書並に学習参考書
本校指定書店
大利昭文堂
阪急芦屋川駅前
電話芦屋3760番

芦屋高校御指定
合資会社　芦屋写真室　撮影部 カメラ部
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋4736番